ちょっとそこまで

わがまち散歩

馬水（まみず）編

「道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩」

朝夕がぐんと冷え込み、風も冷たく感じる頃ですが、それでも昼間の日差しの温かさは心地よく、散歩にはうってつけの季節です。馬水地区をぶらりと歩いてみました。そして今回も、すてきな出会いがありました。

上／稲刈り後の切り株に青い稲が芽吹く「穭田」
右／馬水橋には、この夏に地域の人たちで掛けられた水難のお守りが飾られています

心を元気にする手芸

刈り取られた後の、稲の切り株に青々とした稲が再び生え始めた田んぼを「穭田（ひつじた）」といいます。晩秋の季語の一つで、秋津川の南方に広がる田んぼにその風景を見つけます。

今回の散歩の場所は馬水地区。地区の南北を流れる鉄砂川（てっしゃがわ）は秋津川へと注ぎます。鉄砂川はその名の通り、狩猟具や農具の材料となる鉄砂が取れたことから、古代より人々がこの辺りに住んでいたと伝わります。馬水地区は県道熊本高森線を境に、馬水北と馬水南に分かれています。まずは秋津川に架かる馬水橋を渡り、馬水南を歩いてみました。

おおらかで優しい人柄の橋場元子さん

上／馬水南の公民館で手芸プランを立てていた皆さん。左から河野啓子（かわのひろこ）さん、橋場さん、松永利子（まつながとしこ）さん、濱竹秀子（はまたけひでこ）さん
右／橋場さんが手作りしたクラフトバンドで仕上げた籠

鉄砂川沿いにある公民館ではご婦人たちが、何やら楽しそうに手を動かしています。皆さんは地区のサロンで楽しむ手芸プランを企画中でした。リーダーは橋場元子（はしばもとこ）さんです。「地震後、仮設住宅に住んでいらっしゃる方々に『気持ちが沈まないように』と小物作りをお薦めしたのがきっかけで、ボランティアでお教えするようになりました」と話します。

橋場さんは、クラフトバンドで仕上げる美しい網目のバッグも作ります。「物作りが好きなんです」と言う橋場さんは、自衛官だった夫について家族と全国を転々としながら、自分なりの楽しみを見つけていったそうです。「何かしら一日中、手を動かしていますね。草取りと手芸に犬の世話。そして時々、主人の世話ね」と橋場さんはお茶目に笑いました。

子ども用の軍手を使った愛らしい小物